

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	東京都立府中療育センター		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 6日		～ 令和8年2月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	60	(回答者数) 35
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 6日		～ 令和8年1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子で一緒に通い、お子さんと一緒にあそんでいただくことにより、お子さんの成長を身近に感じていただけるように支援している。	お子さんの特性にあった、安心して取り組める保育プログラムを提供している。お子さんの「できた」「できる」を保護者に伝えるとともに、お子さんの支援について助言している。	保護者のご意見も伺いながら、定期的に保育プログラムの見直しを行い、支援の更なる充実を図る。
2	親子登園のため、職員との距離も近く、保護者が相談しやすい環境。	児童発達支援管理責任者とクラス担任で年3回以上の保護者面談を実施し、保護者の気持ちに寄り添いながら、保護者支援を行っている。	ごきょうだいやご家族同士が交流できる機会を増やすなど支援の幅を広げていく。
3	多職種と連携して、お子さんやご家族のニーズに答えている。	多職種間(医師・看護師・ソーシャルワーカー・PT・OT・ST・心理士・管理栄養士・福祉職員)で情報共有し、お子さんの特性にあった支援の充実に取り組んでいます。	定期的にお子さんについて意見交換し、支援プログラムの充実を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	0・1歳児クラスの設定時間	次年度、1歳児クラスを午前のクラスに設定したが、登園児が多い時、どのように保育室を設定するか、職員配置について検討する必要がある。	1歳児クラスを午前のクラスとして設定していることから、登園児が集中する時間帯における保育環境と職員配置について重点的に検討している。利用児の継続性・安心感を重視した配置を行い、登園時間帯には一時的に職員配置を厚くするなど、時間帯に応じた運営上の工夫を行っている。
2	職員の経験値に差がある	重症心身障害児者を対象とする施設特性上、特設の研修実施や支援のマニュアル化には限界があるが、今後は日々の支援事例の振り返りや職員間の共有を通じて、個々の体調や場面に合わせた支援力の向上に努めていきたい。	お子さん一人ひとりの特性に応じた支援をより充実させるため、研修等を通じて職員の理解と対応力の向上を図る必要がある。また、ベテラン保育士が培ってきた知識や経験を日常の保育や事例共有の場で積極的に伝える仕組みを整え、職員全体の支援力向上につなげていくことが求められる。